

A 共同利用を支える情報

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問

具体例をまとめ、目的と方法を残す

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

① ある架空の学校で、工作用の道具を共同で使う貸出棚を設けた。ねらいは、使う機会が
少ない道具を一人ずつ買わなくても、必要なときに使えるようにすることだった。はじめ
は、道具の名前と借りる人の名前を表に書き、使い終わったら元の場所へ戻す方法にした。
ところが、使いたい時間に道具が戻っていなかったり、棚にあるはずの付属品が見つから
なかったりした。単に道具を集めただけでは、必要なときに利用できる状態にはならなかつ
たのである。

② 担当の生徒たちは、まず二つの問題を分けた。一つは、誰がいつまで使うかが分からな
いことである。もう一つは、返却時に何をそろえる必要があるかが、人によって違って理
解されていたことである。そこで、借りる表に返す予定時刻を加え、道具ごとに付属品の
写真を置いた。写真は使い方を教えるためではなく、返す物がそろっているかを確認する
ために用いた。予定が変わったときに連絡する欄も設けた。

③ これらの変更には、道具の場所だけでなく、使える状態になる見通しを共有する働きが
ある。棚にない道具でも、戻る時刻が分かれば、自分の作業を後へずらすことができる。
逆に、棚に置いてあっても必要な付属品が欠けていれば、そのまま使えるとは限らない。
「物があること」と「利用できること」を区別した点に、この改善の特徴がある。場所と
予定と状態を合わせて知らせることで、利用者が自分で判断しやすくなった。

④ ただし、表を細かくすれば問題が全てなくなるわけではなかった。書く項目が多いと、
短時間しか使わないときに記入を忘れやすくなる。そこで、一週間ごとに記録を見直し、
使われていない欄を減らした。遅れの理由を長く書く欄はなくしたが、予定変更の連絡先
は残した。記録を詳しくすることではなく、次に使う人が予定を立てられることを基準に、
必要な情報を選び直したのである。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

A 共同利用を支える情報

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題1ページ。

- ⑤ また、この仕組みは、道具を安全に扱うための指導の代わりにはならない。初めて使う道具は、担当の大人に使い方を確かめる決まりとした。壊れた場合も、返却の表に書くだけで棚へ戻さず、別の場所に置いて知らせるようにした。返却時刻や付属品が分かっている、安全に使えるかどうかは別に確かめる必要がある。共有の仕組みには、情報を見れば各自で判断できる部分と、詳しい人に確認する部分の両方が含まれている。
- ⑥ この貸出棚の工夫は、道具を増やすことより、今ある道具を使える形でつなぐことに重点がある。利用する人が知りたい予定と状態を共有し、そのために必要な記録を無理なく続ける。さらに安全の確認を別に保つ。共同利用を支えるのは物の所有だけではなく、次の利用へ情報を渡す仕組みである。使う人の経験をもとに記録を見直すことも、その仕組みの一部になっている。

問1 本文全体を要約するときの中心として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 道具を使える状態で共同利用するため、予定や状態を共有し記録を見直す仕組み。
- イ 工作の道具を全て一人ずつ買い、貸出の手間をなくす方法。
- ウ 写真を使って全ての道具の安全な操作方法を伝える手順。
- エ 遅れた理由を詳しく調べ、道具を借りられる人を限定する仕組み。

問2 ③段落で「物があること」と対比されている言葉を、かぎカッコの中から一続きで抜き出してください。（7字。かぎカッコは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--

7

問3 ②・③段落の工夫をまとめた表現として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 道具の名前と購入した場所を増やして記録する。
- イ 道具の見た目を統一して、返す棚を覚えやすくする。
- ウ 使い方の説明を写真にして、大人への質問を減らす。
- エ 返る予定と必要な物の状態を、利用者が確認できるようにする。

A 共同利用を支える情報

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 設問

本文は問題1・2ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問4 本文全体の要約にそのまま入れると不適切な文として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 棚にあっても付属品が欠けていれば、すぐには使えないことがある。

イ 私は工作が好きなので、この貸出棚を全ての学校に広めるべきだと思う。

ウ 記録は詳しさより、次の人が予定を立てられるかを基準に見直した。

工情報の共有とともに、安全な使用については詳しい人への確認を残した。

問5 ②・③段落の改善だけを、何を共有し、何がしやすくなったかが分かるように要約しなさい。(40字以上60字以内)

[illegible]

問6 全体を短くまとめるとき、④段落の個々の欄の変更を一つずつ挙げる代わりに、何を残すとよいですか。その内容をまとめなさい。（50字以上80字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

A 共同利用を支える情報

基礎から標準へ | 目安 30分 | 全8問 | 設問

本文は問題1・2ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問7 次の要約を⑤段落に合うよう書き直しなさい。「返す予定と付属品を記録すれば、全ての道具を安全に使え、大人への確認も不要になった。」（60字以上85字以内）

																			20	
																			40	
																			60	
																			80	
																				85

問8 本文全体を、目的、共有する情報、記録の見直し、安全への対応の四点が分かるように要約しなさい。（80字以上100字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

B 地域の語りを記録する

標準 | 目安 35分 | 全8問

対比と公開の条件を保つ

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

① 地域の昔の暮らしを伝えるため、住民の話を集めて小冊子にする活動を考えよう。ここでは架空の聞き取り活動を例に、語られた内容を記録する方法を見ていく。話す人は、今いる場所から過去を振り返る。何を覚えているかだけでなく、今どんなことを大切だと感じているかによっても、取り上げる出来事や言い方が変わる。そのため、聞き取りの記録は過去の出来事をそのまま保存する容器ではなく、現在の語りを通して過去を知る資料である。

② 例えば、昔の商店街の朝を二人に尋ねたところ、一人は配達の車の音を、もう一人は店の前を掃く音を詳しく語ったとする。どちらかだけが本当で、もう片方は誤りだと決めることはできない。二人が朝にいた場所や、していた仕事が違えば、注意を向けるものも違う。話の違いは、出来事の食い違いを示す場合もあるが、人と場所との関わりを表す場合もある。何が違うのかを分けず、印象の強い方だけを残すと、地域の見え方を狭めてしまう。

③ 記録を作る際には、誰が、いつ、どんな問いに答えたかを一緒に残す。この条件が分かれば、後で読む人は、話が語られた立場やきっかけを確かめられる。また、語られた年や建物の場所など、確かめられる事柄は、写真や地図など別の資料と比べる。資料と異なる点があっても、話全体を消すのではなく、出来事について確認できたことと、その人がどう覚えているかを区別して示す方法がある。事実の確認と、語りの意味の理解は別々の役割を持つ。

④ さらに、冊子に載せるためには、長い話を短くする作業が必要になる。ここで聞き手が、自分の説明に都合のよい部分だけを切り出すと、語り手の考えが変わって伝わることもある。例えば、「便利にはなったが、顔を合わせる機会は減った」という話の後半を省けば、変化を全面的に喜んでいたように見える。短くしても対比やためらいを残し、本人に内容を確認してもらうことが、言葉の扱いを点検する方法になる。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

B 地域の語りを記録する

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題5ページ。

⑤ 公開する範囲も、記録する範囲と同じとは限らない。話の中には、冊子に載せるつもりでない人の名前や、他の人の私的な出来事が含まれることがある。聞き取れたからといって、全てを公開できるわけではない。語り手に確認し、関わる人への影響も考えて、名前を伏せたり掲載を見送ったりする必要がある。省く理由が内容を整えるためなのか、公開の範囲を守るためなのかを分けて考えると、編集の目的を見失いにくい。

⑥ 聞き取りから地域を知るには、話を一つの正解へそろえることより、違いの背景を確かめられる形で残すことが役立つ。語られた条件を記録し、確認できる事柄は他の資料と照合し、短くする際も意味の関係を保つ。そして公開する範囲を確かめる。そうして作られた記録は、過去の情報だけでなく、人がその過去をどう受け止めているかを、後の読み手が考える手掛かりになる。

問1 本文全体をまとめるときの中心として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 聞き取りでは、最も記憶が鮮明な一人の話を地域の正しい歴史として残す。
- イ 語りの違いと条件を確かめ、意味や公開範囲に配慮して地域の記録を作る。
- ウ 聞き取りに資料と異なる点があれば、語り手を変えて最初からやり直す。
- エ 長い話は編集者の説明に合わせてそろえ、短い一つの結論へまとめる。

問2 ③段落の最後で、別々の役割を持つとされる二つを「～と、～」の形で一続きで抜き出さない。（15字。かぎっこは含めない。）

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

15

問3 ②段落の二人の朝の話を要約する表現として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 商店街の朝は、車の音より掃く音の方が記録に適している。
- イ 語り手が同じ地域にいたなら、話の違いは記憶違いと考えられる。
- ウ 同じ地域の経験でも、立場やいた場所によって語る内容が異なる場合がある。
- エ 二人の話を一つに混ぜれば、当時の朝の出来事を正確に再現できる。

B 地域の語りを記録する

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 設問

本文は問題5・6ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問4 ④段落の例の趣旨を保った短いまとめとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 便利になった喜びと、顔を合わせる機会が減った思いの両方を残す。
- イ 変化について語り手が良いと認めた点だけを残す。
- ウ 顔を合わせる機会が減ったので、便利になった点は削る。
- エ 変化の良し悪しは読者に任せ、語り手の受け止めは全て削る。

問5 ②・③段落を、話の違いをどう扱うかに絞って要約しなさい。（40字以上60字以内）

																				20
																				40
																				60

問6 ④段落の方法を、「短くする」という目的と「意味を変えない」という条件が分かるようにまとめなさい。（50字以上80字以内）

																				20
																				40
																				60
																				80

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

B 地域の語りを記録する

標準 | 目安 35分 | 全8問 | 設問

本文は問題5・6ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問7 次の要約を⑤段落に合うよう書き直しなさい。「聞き取りでは、語り手が話した内容を全て公開してこそ、正確な記録になる。」（60字以上85字以内）

[illegible]

問8 本文全体を、語りの性質、確認の方法、編集と公開の注意が分かるように要約しなさい。
(80字以上100字以内)

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

C ひな型と判断を引き継ぐ

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問

本文の骨組みを指定字数へ組み直す

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ① 毎週同じ形の案内を作る仕事では、前の文章をひな型にすると時間を短くできる。日付や場所を書き換えれば、見出しや連絡先を一から作らなくてすむからだ。学校の委員会や地域の集まりでも、このように繰り返す部分をあらかじめ用意する工夫がある。以下では架空の委員会を例に、ひな型が仕事を助ける仕組みと、引き継ぐときの注意を考える。速く作れることと、内容を確認めなくてよいことは同じではない。
- ② この委員会は、毎月の活動案内に、日時、集合場所、持ち物、連絡先の四つの欄を置いていた。担当者が交代しても必要な項目を思い出せる点は便利だった。ところが、屋外活動を室内へ変更した月に、前月の長靴という持ち物がそのまま残った。空欄がなければ完成だと思なしたため、書かれている内容が今回の活動に合うかを確認めなかったのである。項目がそろっていることは、個々の内容が適切であることを保証しなかった。
- ③ そこで委員会は、毎回共通する情報と、活動によって変わる情報を分けて表示した。日付や持ち物などは、前月の内容を残さず空欄から記入するようにした。さらに、欄の横に「参加する人は、この情報を何に使うか」という短い説明を加えた。集合場所なら迷わず到着するため、持ち物なら事前に準備するためである。項目の名だけでなく役割が分かった、いつもと違う活動で何を補うべきかも考えやすくなる。
- ④ ただし、説明を増やしすぎると、ひな型そのものが読みにくくなる。そこで、通常の案内に必要な欄は簡潔に保ち、特殊な場合に検討する点は別の確認表へ分けた。雨で予定が変わる場合や、参加に申し込みが必要な場合などである。全ての注意を毎回の文章へ書き込むのではなく、状況に応じて確認する情報の層を分けた。これにより、普段の作業の速さと、例外への注意を両立させようとしたのである。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

C ひな型と判断を引き継ぐ

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 本文のつづき

本文のつづき 前半は問題9ページ。

⑤ この工夫を次の担当者へ渡すときは、完成したひな型だけでなく、なぜ変えたかという理由も残した。「持ち物を空欄から書くのは、前回の内容を誤って残すのを防ぐため」と分かれば、別の欄で似た問題が起きたときにも応用できる。反対に、理由が分からない決まりは、面倒だからと省かれたり、状況が変わっても機械的に守られたりしやすい。形式を受け取ることに、形式が支える判断を受け取ることには違いがある。

⑥ ひな型は、考える作業を全てなくす道具ではない。繰り返す部分をそろえ、見落としやすい項目を示すことで、今回の状況について考える余地を作る道具である。共通部分と変化する部分を分け、例外を確認する方法と変更理由を一緒に渡すことで、その働きを保ちやすくなる。新しい担当者が状況に合わせて見直せることまで含めて、仕事の引き継ぎを捉える必要がある。

問1 本文全体を要約する骨組みとして、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 委員会の歴史→長靴の種類→室内活動の利点→次の月の計画。

イ案内の項目→ひな型を廃止する理由→全員で毎回作る方法。

ウ ひな型の便利さ→内容確認の問題→区別と理由の共有→状況に合わせた引き継ぎ。

工 作 時 間 の 短 縮 → 確 認 表 を 増 や す ほ ど よ い 理 由 → 全 て を 固 定 す る 方 法。

問2 ⑤段落で、「形式を受け取ること」と区別されることを表す言葉を、一続きで抜き出さないさい。（15字。かぎかっこは含めない。）

[illegible]

15

問3 ②段落の長靴の例を、全体要約の中でまとめる表現として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 項目が埋まっていますが、以前の内容が残り、今回の状況に合わないことがある。

イ 屋内活動では持ち物が不要になるので、持ち物欄そのものを削る必要がある。

ウ 担当者を交代させなければ、全ての案内を正しく作ることができる。

エひな型を使う仕事は、毎回一から書く仕事より必ず間違いが多くなる。

C ひな型と判断を引き継ぐ

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 設問

本文は問題9・10ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問4 本文の要約として客観性を保っている文として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 私はひな型が苦手なので、委員会では使わない方がよい。
- イ ひな型は楽をするための道具なので、考える力を必ず弱める。
- ウ 長靴の間違いをした担当者は、責任感が足りなかった。
- エ 共通部分をそろえることで、その回の状況を考える余地を作る。

問5 ③段落の工夫を、項目の分け方と役割の説明の二点に触れて要約しなさい。（40字以上60字以内）

																					20
																					40
																					60

問6 新しい担当者に、④段落の確認表を分けた理由を伝えます。普段の作業と特殊な場合の両方に触れてまとめなさい。（50字以上75字以内）

																					20
																					40
																					60
																					75

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

C ひな型と判断を引き継ぐ

発展・応用 | 目安 40分 | 全8問 | 設問

本文は問題9・10ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問7 次の要約を⑤・⑥段落に合うよう書き直しなさい。「ひな型の理由を伝えれば、今後は誰が担当しても決まりを変える必要がなくなる。」（60字以上85字以内）

[illegible]

問8 本文全体を、ひな型の働き、内容確認の必要、引き継ぐものが分かるように要約しなさい。
(80字以上100字以内)

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

D 展示を読む入口

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点

二資料の関係と結論の限界をまとめる

本文は本教材用に作成したオリジナル文章です。

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

- ①【資料Ⅰ 展示の説明文を考える提案】地域の道具を紹介する小さな展示を計画している、架空の実行委員会の提案である。展示を見る人には、道具の名前だけでなく、どんな暮らしの中で使われたかも伝えたい。しかし、一枚の説明文に作り方や歴史や使い方を全て詰め込むと、目の前の道具を見る前に読み疲れてしまう場合がある。説明をただ短くすればよいのでもない。短くしすぎると、初めて見る人には使われた場面を想像する手掛かりがなくなる。
- ② そこで、道具のそばには名前と基本的な用途を短く示し、詳しく知りたい人が読める説明を別に用意する。例えば、「米を量る容器」という基本の説明に加え、使った人の話や時代による変化を別紙に載せる方法である。読み手が一度に受け取る量を調整し、自分の関心に応じて先へ進めるようにする。ただし、別の説明があることに気付かなければ、情報を分けた効果は生まれにくい。最初の説明に、詳しい資料の場所を示す必要がある。
- ③ この方法は、長い説明を読む人だけを大切にしているものではない。短い説明と道具を見比べるだけでも、基本の使い方が分かるようにすることが前提である。その上で、詳しい背景へ進む入口を作る。説明の長さを一つにそろえるのではなく、道具を見ることと読むことを行き来できるようにするのが、この提案の目的である。

読み取りメモ ここまでの段落の役割・対比・条件を整理しよう。

D 展示を読む入口

実力確認テスト | **目安 40分** | **全8問・100点** | **本文のつづき**

本文のつづき 前半は問題13ページ。

④【資料Ⅱ 試しに置いたときの観察記録】同じ委員会が、展示の準備日に少人数の協力者を招き、短い説明と別紙を置いた。協力者の中には、短い説明を読んでから道具を持つまねをし、別紙で使った人の話を確かめた人がいた。一方、別紙があることに気付かず、「なぜこの形なのかも知りたい」と話した人もいた。また、別紙に進まなくても、短い説明の用途を見て、道具の形の意味を自分なりに考えた人もいた。

⑤ この観察では、説明を分けた方法を選ばない場合との比較は行っていない。協力者も、当日の来場者全体を代表するように選んだわけではない。そのため、全ての人に以前より分かりやすくなったと結論付けることはできない。ただ、別紙へ進む人がいること、別紙の存在が伝わらない場合があること、短い説明だけでも道具を見る手掛かりになる場合があることは確認できた。

⑥ 次の試行では、短い説明のそばに別紙の置き場所を示し、どこまで読んだかだけでなく、道具をどう見たか、どんな疑問を持ったかも確かめることにした。別紙を取った人数が増えても、知りたかったことが分かるとは限らないからである。提案のよしあしを決める前に、情報への進み方と、道具の理解との関係をさらに調べる。これが、今回の観察から決めた次の課題である。

問1〔10点〕 資料Ⅰと資料Ⅱの関係として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア Ⅰは完成した展示の成績、Ⅱは成功が確定した原因の説明である。

Ⅰは道具の歴史、Ⅱはその道具を作った人の伝記である。

ウ I は方法の提案、II は試行で見たことと未確認の点の記録である。

エ I は短い説明への反対、II は長い説明だけを使うための計画である。

問2〔10点〕③段落で、この提案ができるようにしようとしていることを、「道具」から「ようにする」まで一続きで抜き出なさい。（24字。かぎっこは含めない。）

[illegible]

D 展示を読む入口

実力確認テスト | **目安 40分** | **全8問・100点** | **設問**

本文は問題13・14ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問3〔10点〕 資料Ⅱの要約として、本文で確かめた範囲を超える文として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 別紙の存在に気付かず、形の理由を知りたいと話した人がいた。

イ 短い説明と別紙に分けると、全ての来場者の理解が以前より深まると分かった。

ウ 短い説明だけで、道曇の形の意味を考えた協力者もいた。

工 次は別紙の案内を足し、道県の見方や疑問も確かめる予定である。

問4〔10点〕④段落の三種類の反応を短くまとめる表現として、最も適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 全員が同じ順序で説明を読み、道具の用途を同じように理解した。

イ別紙を読まない人には、短い説明の用途も伝わらなかった。

ウ別紙を読んだ人だけが、道員に対する疑問を持っていた。

工 読む範囲や情報への気づきが異なり、短い説明から考える人もいた。

問5〔15点〕 資料Ⅰの提案を、短い説明と詳しい説明の関係、二つを結ぶ工夫が分かるように要約しなさい。（40字以上60字以内）

[illegible]

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。

D 展示を読む入口

実力確認テスト | 目安 40分 | 全8問・100点 | 設問

本文は問題13・14ページ。選択は記号に○。句読点・かぎカッコも1字です。

問6〔15点〕 資料Ⅱの⑤段落を、効果を断定できない二つの理由が分かるように要約しなさい。
(50字以上80字以内)

																					20
																					40
																					60
																					80

問7〔15点〕 ⑥段落で次に調べようとしていることを、別紙の人数だけでは足りない理由も含めてまとめなさい。(60字以上85字以内)

																					20
																					40
																					60
																					80
																					85

問8〔15点〕 二つの資料を合わせ、提案の方法、試行で見えた課題、結論の限界と次の確認が分かるように要約しなさい。(80字以上100字以内)

																					20
																					40
																					60
																					80
																					100

見直しメモ 必要な内容と本文の根拠を確認しよう。